



# 学校だより

5月号

【か】よくかんがえ【な】なかよく【が】がんばる【わ】わたしたちかなっ子

神奈川小公式WEBページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kanagawa/>

令和8年4月30日

横浜市立神奈川小学校

## 学びを日常に生かし、社会につなげる

校長 足立 渉

早いもので新年度となり一か月が過ぎました。4月に入学したばかりの1年生も、給食当番をしたり、掃除をしたり、勉強をしたりと、小学校生活に慣れてきました。委員会活動が始まった5,6年生は、下学年に高学年として頑張る姿を見せています。そうした子どもの頑張りを見ると「今年度も『かなっ子』はすばらしいです。」と、自信をもって皆さんに伝えたいほどです。



さて、正門横の藤の花がきれいに咲き誇りました。昨年度はあまり咲かなかったのですが、今年はたくさん咲き目を楽しませています。ところで、皆さんは「藤の花」と聞いて何を想起しますか？例えば映画「国宝」で吉沢亮さんと横浜流星さんが躍った「藤娘」。栃木県「足利フラワーパーク」の藤の花も有名だそうです。私が最初に頭に浮かんだものは「鬼滅の刃」です。映画や漫画で有名なので説明の必要はないのかもしれませんが、この作品では鬼が嫌う花として「藤の花」が出てきます。少し前まで上映していた映画「無限城編第一章」でも、柱の一人が藤の花から抽出したものを武器にして鬼と戦っていました。この映画は日本国内で約2800万人も鑑賞されていて、単純に計算すると22%の日本人が見たこととなります。つまり「鬼滅の刃」を好きな子どもは多いはずですが（実際に映画が上映された去年の夏休み後には「校長先生、鬼滅の映画見た？」と、多くの子どもに声かけられました。）その鬼の弱点である花が、学校に咲いていることを知っている子どもはどれくらいいるのでしょうか？私に映画のことを尋ねた子に先日「藤の花が咲いているよ。」と教えました。その子の反応は「あ、そうなの。」で終わりました。私としては、「あの胡蝶しのぶが使った花？」や「あの鬼が苦手になっている花？」という驚きの反応を想像していたのですが、残念ながら「鬼滅の刃」を連想できなかつたです。その子には、もう旬の情報じゃなかったのかもしれませんが、もしくは、内容をすっかり忘れていたのかもしれませんが、もしくは、漫画に出てくる花が「かな小にあるはずがない。」と思ったのかもしれませんが。

現在の私たちはたくさんの情報にふれています。日本に住む人が1日に浴びる情報量は、平安時代の一生分、江戸時代の1年分にあたると言われていています。それらの中で、自然と必要な情報を取捨選択し、いらないものを忘れていくことは、生きる上で欠かせない力だと思います。なので「藤の花」と「鬼滅の刃」が繋がらないことも、その子には当然かもしれません。ただ、文字や映像等からインプットした情報を、現実と結びつける力も私たちには必要です。その力は、学びを日常に生かし、社会につなげることとなります。そのためには、興味あることにしっかりと目を向けること、わからないことをそのままにしないこと、リアルを探すことを大切にしてほしいと思います。そうした学びを「かな小」は推奨していきます。教科書だけで終わらない、リアル、本物に触れる学びを創っていきます。今月もご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。（平安時代の清少納言は藤の花を「いとめでたし」と「あてなるもの」と書いています）